

## 巻頭言

# The pandemic COVID-19 の I-LISS Japan の活動への影響について

中村 恵信

(I-LISS Japan Chapter 事務局長)

日本では 2020 年 2 月ごろから、The pandemic COVID-19 の感染者が発生し、全国的に大学の卒業式、謝恩会も中止になった。日本図書館研究会研究大会が京都で 2 月 22 日・23 日に開催予定であったが、中止になった。同様に大阪府立中之島図書館での「図書館を学ぶ相互講座」も中止になった。そして全国の公立図書館も休館体制になっていった。4 月 16 日の緊急事態宣言により、5 月末まで継続された。

今夏にインドで開催予定であった I-LISS の年次大会「ICIDL & IIC 2020 on “Revitalizing the Libraries to the Android Society”」も延期になった。I-LISS と共催の韓国の図書館大会も 5 月開催予定であったが、10 月に延期された。しかし、現在のコロナの感染状況(8 月下旬現在)では、10 月に開催されるかどうか不確かなところがある。

他方、I-LISS Japan Chapter は 11 月 28 日(土曜日)に、大阪府立中之島図書館の「図書館を学ぶ相互講座」との共催で、桃山学院大学大学院経営学研究科教授の小澤義昭氏に「専門職制度の国際化と AI 技術の発展: 米国における公認会計士制度の変遷を中心に」のテーマで講演を依頼している。また、「I-LISS Japan Chapter 図書館情報学集会 2020」のテーマで、I-LISS Japan Chapter の年次大会・総会を 12 月 26 日(土)に会場(大阪府立中之島図書館)または Zoom による同時開催を行う予定である。

本誌「Journal of I-LISS Japan」は 2018 年に発刊し年 2 回発行し逐次刊行物として NDL に納本し ISSN 2433-7870 と登録も得ている。本誌の発行は I-LISS 本部でも高評され、受賞候補となる栄誉を頂いている。今回、国立研究開発法人科学技術振興機構(Japan Science and Technology Agency)より J-GLOBAL・JDream III に著者抄録の掲載依頼があり、承諾し掲載されることになった。これにより本誌は国内の学会誌として認められたことになる。本誌を電子ジャーナル化している I-LISS Japan Chapter の HP にリンクを張ってくれることになり、本誌の電子ジャーナル化の一步となった。今後は全面的な電子ジャーナル化に向けて努力したい。

事務局長の主な仕事は年会費の徴収及び執行と事務連絡であるが、これも編集委員の努力により印刷費の軽減がされたので会計の方も落ち着いてきた。また、本誌は「機関誌の運用細則」によって投稿料を徴収することになっているので、収入増に貢献している。著者支払いモデルを取り入れており、さらに今後も経費軽減に向けて頑張っていきたい。このコロナ事態の収束は予測できないが、正確な事実に基づく情報の提供を通じて現実を変革できる学会にしていきたいと願っている。

I-LISS Japan Chapter の HP

[http://shihota.world.coocan.jp/top\\_page/lissaspac-jp.html](http://shihota.world.coocan.jp/top_page/lissaspac-jp.html)